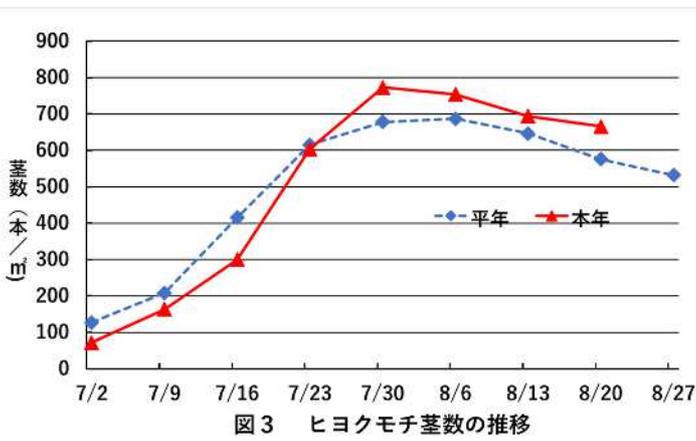
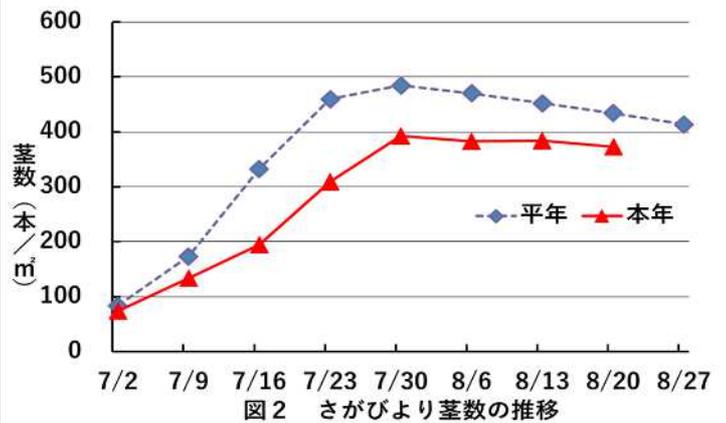
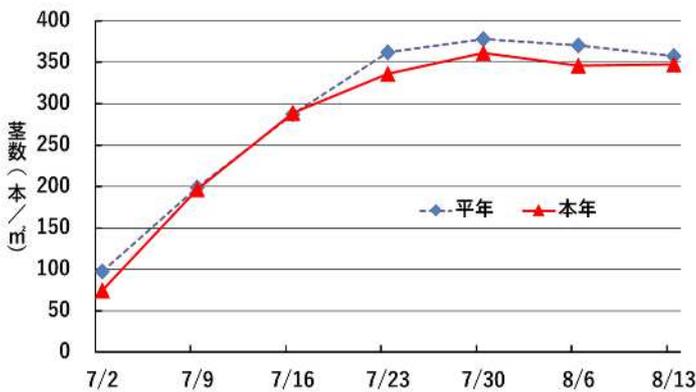


稲・大豆作情報 (NO. 8)

1. 水稻作況情報田の生育概況 (8月20日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/㎡	葉 齢	葉 色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.0株/㎡	本 年 平 年 平年比			出穂期 8月15日 (平年より1日早い)		8月3半旬は、気温は高く(平年より+1.9℃)、降水量はかなり少なく(平年比1%)、多照(平年比166%)で経過している。 ◇平年と比べ、 草丈:「さがびより」は低い、「ヒヨクモチ」は平年並み。 茎数:「さがびより」は少ない、「ヒヨクモチ」は多い。 葉齢:「さがびより」はやや遅れており、「ヒヨクモチ」はやや進んでいる。 葉色:「さがびより」は淡く、「ヒヨクモチ」は平年並み。
さがびより 小城市芦刈町	6/22 18.5株/㎡	本 年 平 年 平年比	78.2 89.0 (88)	372 434 (86)	13.9 14.7 (-0.8)	32.4 36.4 (-4.0)	
ヒヨクモチ 神崎市神埼町	6/21 19.0株/㎡	本 年 平 年 平年比	78.2 79.5 (98)	666 576 (116)	15.1 14.6 (+0.5)	37.0 36.8 (+0.2)	

注1) 各品種 前作: 麦 注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる
注3) 平年値は、過去10年間(H25~R5)の平均値(さがびよりについては、R1年を除くH25~R5年の平均値)
注4) ヒヨクモチは今回神埼町のデータを用いています



◆農業試験研究センター米づくり情報 第8号 8月20日(抜粋)

本年産水稻の生育状況(8月20日)

移植日	項 目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
6月18日	夢しずく	本年 平年 平年比(差)	出穂期:8月15日 出穂期:8月17日 -2			[気象] 8月13日~8月19日まで ◆平均気温…平年より2.2℃高い(30.5℃) ◆日照時間…長い(平年比140%) ◆降水量…極端に少ない(平年比1%) [生育] ◆草丈 「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」はやや高く、「さがびより」は高い。 ◆茎数 全ての品種でやや多い。 ◆葉齢 「夢しずく」の主稈葉数は平年並み(主稈葉数:本年13.5、平年13.4)、葉齢は「ヒノヒカリ」「さがびより」「ヒヨクモチ」でやや進んでいる。葉耳間長は「ヒノヒカリ」で+13.6cm、「さがびより」で-2.3cmとなっている。	
	ヒノヒカリ	本年 平年 平年比(差)	95.7 91.5 105	472 455 104	14.6 14.2 +0.4	36.2 33.3 +2.9	◆葉色 「ヒノヒカリ」は濃く、「さがびより」でやや濃い。「ヒヨクモチ」は平年並み。
6月20日	さがびより	本年 平年 平年比(差)	93.9 85.5 110	460 452 102	14.6 14.4 +0.2	37.4 36.3 +1.1	
	ヒヨクモチ	本年 平年 平年比(差)	78.4 74.8 105	580 550 105	15.2 14.7 +0.5	36.0 35.9 +0.1	
留意点	<p>○「夢しずく」の出穂期は8月15日で平年より2日早かった。 ○「ヒノヒカリ」は間もなく出穂期を迎える。葉耳間長から判断すると「さがびより」は10日後(8月30日頃)に出穂期を迎える。 ○「ヒヨクモチ」等でコブノメイガの成虫が多く見られ、被害葉も多数見られた。</p>						

注1) 耕起概要等は前号参照。

2. 水稻における今後の管理

○水管理 ~ 生育ステージに応じた適正な水管理を行う ~

「夢しずく」

- ・早植えの「夢しずく」(5月下旬~6月上旬移植)は、乳熟期~糊熟期となっている。
- ・普通期の「夢しずく」(6月中旬移植)は、穂揃い期を迎えている。
- ・根の活力維持と地固めのため間断灌水に移行する。

「ヒノヒカリ」、「さがびより」、「ヒヨクモチ」

- ・「ヒノヒカリ」は、間もなく出穂期を迎え、「さがびより」は間もなく止葉が抽出し穂ばらみ期を迎える。
- ・幼穂形成期以降は、稲が水を必要とする時期なので、穂揃い期まで浅水で湛水状態を保つ。
- ・「ヒヨクモチ」は、幼穂形成期を迎えているため、湛水管理に移行する。

(全品種共通)

- ・今後も高温が続くと予想され、特に夜間の高温は、穂への養分転流が阻害され、登熟歩合の低下や白未熟粒発生による品質低下が懸念される。そこで、湛水管理を行う際に夕方以降の入水が可能であれば・・・
⇒ 昼間の浅水 → 夜間の湛水管理を行い、なるべく地温を下げるよう努め、収量・品質の向上を図る。

○穂肥 ～ 散布時は入水し、湛水状態で施用 ～

「ヒヨクモチ」

- ・「ヒヨクモチ」は、間もなく2回目の穂肥時期を迎える。下記の穂肥施用基準を参考に施用する。
- ・穂肥施用時は湛水し、その後の間断灌水では、土壤中に酸素を送り、根の活力を向上するため落水期間を確実にとる。なお、田面が緩い場合、収穫と麦播種作業の効率化を図るため、落水期間をやや長めにとる。

表1. ヒヨクモチの穂肥施肥基準

	穂肥Ⅰ施用量(kg/10a)	穂肥Ⅱ施用(kg/10a)	実肥施用量(kg/10a)
施用時期の目安	8月15～17日頃 (幼穂形成始期 幼穂長1ミリ頃)	8月25～27日 (穂肥Ⅰの10日後)	穂揃期 (9月8日～10日頃)
LPBB804	40	—	—
BB602	25	10	10

※「元肥一発肥料」を施用した圃場で、穂肥Ⅰ～Ⅱの時期に葉緑素計(SPAD)で40を切る場合には窒素成分で2kg/10a程度(BB602 10～20kg/10a)施用すれば、増収効果がある。

大豆跡の圃場では、穂肥の散布を控えるか上記施用量の5割未満に減肥して施用する。

○病害虫情報(発生および防除)

- ・8/20に調査した圃場では、ウンカ類の幼虫(発生量は少ない)及びコブノメイガの幼虫と成虫(発蛾:特に「ヒヨクモチで多い」)を確認している。
- ・今後も高温・少雨が続く見込みであり、このような条件下では害虫の発生が多くなるため、圃場での発生状況を確認し、適期防除を実施する。

①【トビイロウンカ】

- ・ウンカ類(セジロウンカ、トビイロウンカ)は、梅雨の前線に伴う飛来(6/23～、7/1～、7/10～)が確認されている。
- ・トビイロウンカの発生予測は、図1のとおりで、防除効果が高い時期は、幼虫ふ化揃い期(各幼虫期の前半)である。【有効薬剤:オーケストラ、エクシード、エミリア など】
- ・防除する場合は、湛水するとともに薬剤が株元まで十分にかかるように丁寧に散布する。
- ・展着剤を加用することで防除効果の安定化を図る(現段階では地上散布のみ)

②【コブノメイガ】

- ・県内のライトトラップで7月中旬以降、断続的に誘殺されている。
- ・8月上旬の定期調査では、早植え水稻で発生率は「多」となっており、管内の一部圃場では成虫と幼虫が確認されている。【有効薬剤:ロムダン、トレボン など】
- ・今後、止葉を含む上位3葉に被害が発生すると減収につながるため、発生状況に注意する。
- ・コブノメイガの発生予測は、図2のとおりで防除適期は幼虫ふ化揃い期(発蛾最盛期の7日後)である。(各自圃場の状況を見ながら防除をおこなう。)
- ・上記の両害虫とも、品種別に発生状況は異なると考えられるため発生状況を確認し、適期防除に努める。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を、農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。





図1 トビロウカ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)

図2 コブノメイガ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)

暫定防除時期
1回目 8/14~8/20
2回目 9/12~9/20

暫定防除時期
1回目 8/10~8/22
2回目 9/13~9/29

③ 【斑点米カメムシ】

- ・ 向こう1か月の気象予報（福岡管区气象台：8/17~9/16）によると、九州北部地方では、今後も平均気温は高くなると予想されているため、カメムシ類は多発生条件となっている。
- ・ 出穂後の除草は、水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、出穂10日前までに畦畔除草を行い、乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に薬剤防除を実施する。
- ・ 山麓部や河川敷付近など、例年発生の多い圃場では田廻りを励行し、防除を徹底する。
- ・ 防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

表2. 各品種別の草刈り時期と防除時期の目安

品種名	出穂10日前	出穂期（平年）	乳熟期（平年）
夢しずく	~8/6頃まで	8/16	8/28頃
ヒノヒカリ	~8/17頃まで	8/27	9/8頃
さがびより	~8/20頃まで	8/30	9/11頃
ヒヨクモチ	~8/31頃まで	9/10	9/22頃

※出穂期（平年）は、佐城管内における情報田のデータの平均値

※被害の常発地帯や多発生が予想される場合、穂揃い期と乳熟期に薬剤防除を行うと効果的です。

④ 【紋枯病】

- ・8月の気象予報では、気温が高く、多発生条件となっており、一部圃場で発生を確認している。
- ・高温多湿条件が続くと、紋枯れ病が進展する恐れが高まるので、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除を徹底する。（液剤、粉剤の場合は出穂10～20日前を目安とする）
- ・病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。



写真：紋枯病（8/20撮影）

○台風対策

- ・現在、台風9号が発生しており九州への直接的な影響はないと考えられますが、今後も新たな台風の発生が懸念され、進路によっては水稻への影響が懸念されます。
- ・**台風接近時** → 風による稲体の損傷を少なくするため深水管理とする。
いずれの品種も、茎葉の繁茂度が高く、水分の蒸散量が著しい時期にあたるので、必ず深水・湛水を行う。
- ・**台風通過後** → 茎葉の損傷により根の老化が進むことがあるので、台風通過後は必ず新しい水と入れ替えて、こまめに間断灌水を行い、根の機能維持・生育回復に努める。
水田に海水流入による浸冠水や潮風害を受けた場合は、直ちに排水し真水と入れ替える。できれば掛け流しを行って除塩するか、少なくとも2～3回は水を入れ替え、生育回復に努める。
※台風通過後は受光体制が乱れ、ウンカや白葉枯れ病等が発生しやすくなるため、トビイロウンカの発生には十分注意し、場合により薬剤防除を検討する。

3. 大豆における今後の管理

1) 大豆の生育状況

7月上旬頃に播種 → 開花始め

7月下旬頃に播種 → 本葉4～8葉程度

※同じ播種時期でも土壌水分の違いや降雨の有無で生育格差が見られる。



写真1 7月上旬播種（8/16撮影）



写真2 7月下旬播種（8/16撮影）

2) 今後の管理

○中耕・培土の実施

- ・播種時期が遅い圃場や土壌が乾燥した圃場では生育量が小さいため、生育量を確保するため培土を行う。
- ・ただし、上記の圃場では地上部の生育が不足し茎長が短く、最下着莢位置も低くなると予測されるため、培土は軽め（うねの高さは例年より低く）に行い、収穫ロスの低減と汚粒の発生防止に努める。
- ※開花期が近い圃場や、開花期以降の圃場での中耕は根を痛めるので控える。

○干ばつ対策について

① 乾燥で大豆が萎れ始めている圃場での対応

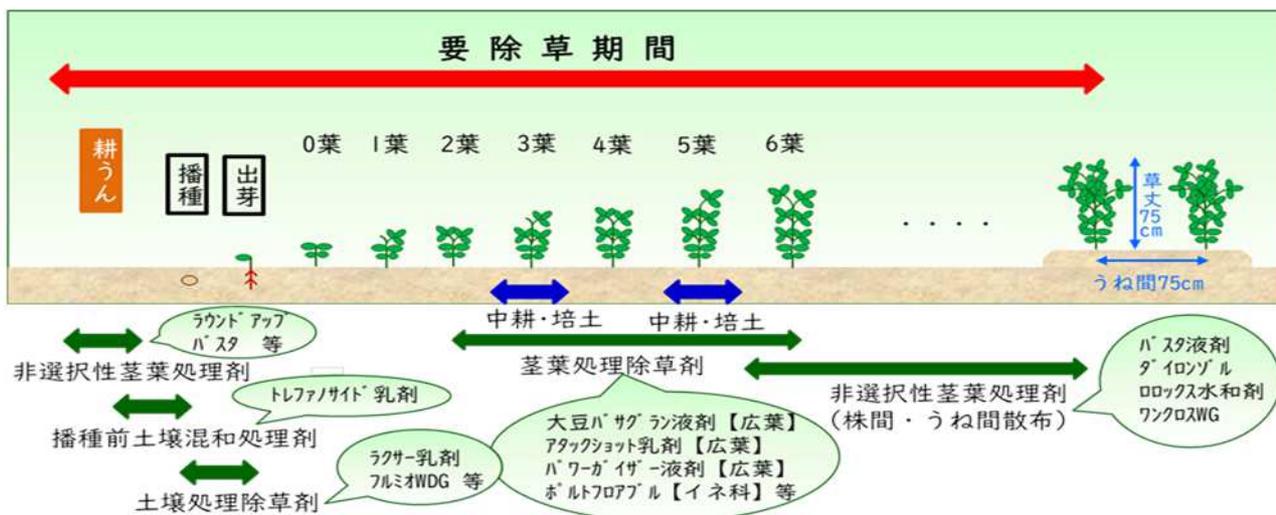
- ・梅雨明け後、降雨がほとんど見られず圃場の土壌が乾燥することにより、大豆の草冠が立っていたり萎れている圃場（写真2）が散見される。このような圃場では、夕方以降にうね間灌水（※注1）を検討する。なお、うね間灌水後は雑草の発生が多くなるため、早めに除草剤散布等の雑草対策を行う。
- ・高温・乾燥が続く予報の場合には、コルゲート管の閉栓が土壌水分確保に有効である。



3) 雑草防除（生育期処理）

- ・雑草の発生が多い圃場では、雑草の発生に応じて生育期の茎葉処理剤（下図を参照）を散布する。
 - ・アサガオ類・ホオズキ類の難防除雑草が多い地域では、圃場内への侵入防止に努める。
- また、発生が認められる圃場は、発生が少ないうちに、雑草の開花や結実前までの茎葉処理除草剤のスポット散布や手取りによる徹底防除を行う。

図1. 除草技術と実施時期の目安



※アタックショット乳剤（使用時期：大豆開花前まで）は、重複散布や他の茎葉処理剤との混用、展着剤の加用、粒径の細かいノズルによる散布、軟弱徒長気味の大豆への散布を行うと、薬害を助長するため避ける。

4) 病害虫対策（発生及び防除）

【ハスモンヨトウ、カメムシ類】

- ・病害虫発生予察情報予察第5号（8月7日発表：大豆8月下旬）では、九州北部地方の1か月予報で気温は高く・降水量はやや少なく、多発生の条件となり、予想発生量は「ハスモンヨトウ」・「カメムシ類」ともに平年比「やや多」となっている。

管内の一部圃場では白変葉及びハスモンヨトウの幼虫が確認されている。

- ・防除適期は、若令幼虫による白変葉が見られ始めた頃であり、防除が遅れ中齢幼虫以上（体長約2cm以上）になると、防除効果が低下するため、圃場をよく観察し適期防除を実施する。
- ・防除後約3日経過した後も高い密度で食害を続けている時は、再防除が必要である。
- ・カメムシ類の防除適期は、莢の伸長初期から子実肥大中期であるため、圃場での発生状況を確認し、遅れないように防除を実施する。



ハスモンヨトウ (①若齢幼虫の集団, ②白変葉<若齢幼虫の集団による食害>, ③中-老齢幼虫)
(平成22年撮影)

【オオタバコガ・ウワバ類】

- ・気象予報では高温・少雨が予測され、ハスモンヨトウと同様、今後の発生状況に注意する。
- ・葉に大きな穴が開いた株が目立ち、周辺に青虫がいる場合は、オオタバコガによる食害の可能性が高くウワバ類やシロイチモジヨトウが含まれる場合もある。

表1. 防除薬剤

名 称	効果が高い薬剤	感受性低下が疑われる薬剤
ハスモンヨトウ	プレオ、ディアナ、ベネビア、グレーシア等	プレバソン
オオタバコガ	プレオ、グレーシア等	ノーモルト、トレボン
シロイチモジヨトウ	プレオ、グレーシア等	ノーモルト、トレボン

※オオタバコガやシロイチモジヨトウには、ノーモルト、トレボンは感受性が低下しており、使用を避ける。

令和6年産水稻・大豆生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター

